

歯科金属アレルギー外来

金属アレルギー

「時計やネックレスをするとかぶれる（かゆくなる）」という金属アレルギーは最近増えています。アレルギーには「使用頻度の高いものがその原因となる」という特徴があります。一部の人は、不可欠な種々の金属に触れることにより、体が反応してしまうようになりました。

お口の中の金属によるアレルギー？

歯科治療の多くは金属等を使って可能な限り快適なお口の中にするにありますが、昔は抜いていた歯も土台を立てて、かぶせをして噛めるようにします。しかし、残念ながらこの金属によってアレルギーが引き起こされる人が増えてきました。

最近テレビ等でも「口の中の金属を取ると長年悩んできたアトピーが治った！！」と報告されているように、一部の人はお口の中の金属が害となっています。

お口の中の金属によるアレルギーの症状

症状としては手のひらおよび足の裏にかゆみができることが最も多くなります。症状が強い場合は水疱ができたり爪が変色もしくは変形することがあります。お口の中の金属が原因ですから症状もお口の中に出るかと思像されやすいのですが、そのかぎりでないところがこのアレルギーの特徴です。

金属アレルギーの検査

現在行われているのは、「パッチテスト」と呼ばれている検査です。

「パッチテスト」とは背中や腕に試料を貼り、48時間後に除去し、48時間後、72時間後、7日後に皮膚反応を確認する検査です。このように単純なテストゆえ、残念ながら「パッチテスト」の正診率は100%ではありません。しかし、様々な理由により現在最も有用なテストがこの「パッチテスト」です。

パッチテスト



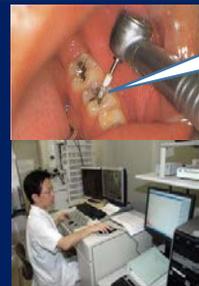
貼薬直後

除去後
48時間

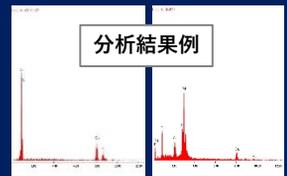
お口の中の金属元素分析

これまではお口の中の金属を元素分析するには大きく削る必要がありました。

しかしながら、金属を削って元素分析し、アレルギーの原因でないと判定されることも多くありました。当科ではお口の中の金属を取り除いたり削ったりすること無く、元素分析を行うことができます。

口腔内金属
を研磨電子顕微鏡
など専用装置
を使い、
含有金属を
調べる

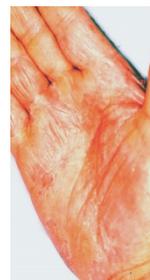
分析結果例



金属アレルギーに対する治療

- ◆ **対症療法**：アレルギーの金属が特定できない場合または原因除去が困難な場合などに行います。治療は、ステロイド軟膏、非ステロイド軟膏の外用療法（塗り薬）と抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、ステロイドの内服療法（飲み薬）があります。
- ◆ **原因除去療法**：アレルギーの金属がほぼ特定された場合はその金属を除去し仮歯（樹脂製）を装着します。金属を使用しない最終的なつめもの・かぶせは保険内で対応できない場合がありますので、治療に先立ち充分御相談させていただく必要があります。

掌蹠膿疱症（しょうせきほうほうしょう）



初診時



終診時

原因
金属
除去